

(新型コロナウイルス感染症後遺症の中樞神経病変) に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に(帝倫 21-145 号)、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2021 年 11 月 5 日 ~ 2025 年 3 月 31 日

[研究課題]

COVID-19 後遺症における中枢神経系の機能的変化の解析

[研究目的]

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の後遺症は、急性期の症状が軽かった患者さんから重かった患者さんにまで様々な症状が観察されています。呼吸機能障害などの急性期の臓器障害の後遺症の他に、倦怠感、brain fog と呼ばれる認知機能障害、不安感、睡眠障害、頭痛、身体の痛み、味覚嗅覚障害、などが観察されています。この研究では安静時機能的 MRI 解析という特殊な検査によって、脳の機能を調べ、新型コロナウイルス感染症後遺症に特徴的な変化を探します。

[研究意義]

通常の検査をしても異常がないのにどうしてこんな症状が続くのか、という疑問に答えようとする研究です。こうした検査によってあなたの現在の状態や、治療による変化が分かる事が期待されます。

[対象・研究方法]

新型コロナウイルス感染症を発症されて 12 週間以上経過して、倦怠感、brain fog と呼ばれる認知機能障害、不安感、睡眠障害、頭痛、身体の痛み、味覚嗅覚障害、鼻閉感、息苦しさなど、何らかの症状を感じていらっしゃる方を対象とします。脳 MRI 撮影を行い、症状の原因として脳に病変があるかどうかを画像診断で調べます。同時に、コンピューター上のデータ処理によって脳内の各領域の神経細胞の働き方、繋がり方を調べます。また、別の研究(帝倫 19-077-3、慢性疼痛疾患における痛覚過敏形成機構の解明)に参加して頂いた患者さんと健常人の情報も比較対照群として用います。

[研究機関名]

帝京大学ちば総合医療センター

[研究責任者]

帝京大学ちば総合医療センター・ペインセンター・教授 青江知彦

[個人情報の取り扱い]

この研究では血液などのあなた由来の検体を採取することはありません。研究に参加して頂いた対象者全体の傾向を解析します。個人が同定されないように留意して集計します。本研究の情報は学内規定に従い研究終了後 10 年間保管された後に廃棄されます。

[その他]

特になし

参加して頂ける可能性のある方で、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ

研究責任者: 氏名 青江知彦

職名 教授

所属： 帝京大学ちば総合医療センター・ペインセンター
住所： 〒299-0111千葉県市原市姉崎 3426-3
TEL： 0436-62-1211 (代表) [内線 5417]